

農推第1149-10号
令和2年1月9日

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生・防除情報メールサービス（1月）

大阪府内の1月の病害虫発生状況と今後1か月の防除対策についてお知らせします。
ハウスに雪が積もった場合は、倒壊の恐れがありますので、決してハウス内に入らないでください。

- 各病害虫の発生状況は、巡回調査や植物防疫協力員の報告等をもとに作成しています。
- 各病害虫の詳細や、農薬を使用しない防除方法等は、下記ホームページの「防除指針」を参照してください。

◎ 「病害虫防除グループホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/>◎ 「防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>▲病害虫防除グループ
ホームページ

▲防除指針

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

目次

1 水稲	P.1
2 果樹(バラ科果樹)	P.1~2
3 野菜(トマト・ミニトマト、あぶらな科野菜、たまねぎ)	P.3~4

次回の情報は2月中旬頃にお知らせします。

2020年農林業センサスが実施されます

農林水産省・大阪府・市区町村では、令和2年2月1日現在で、「2020年農林業センサス」を実施します。

円滑な調査の実施に向けて、ご協力をお願いします。
また、調査票はオンラインによる回答も可能です。



水稻

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）



成貝

特徴

- ◆食害が激しいのは田植え後約20日間までで、成長して硬くなったイネは食害しない。
- ◆年々発生地域が拡大している。

防除のポイント

- ◆刈り取り後、耕うんして貝をひき潰したり、地表で寒気にさらし凍死させて、越冬貝を減らす。
- ◆耕うん機などの土に貝が付着することがあるので、移動の際はしっかり土を落とす。

果樹

バラ科果樹（もも、すもも、うめ等のサクラ属）

クビアカツヤカミキリ



成虫

幼虫



うどん状フラス



中華麺状フラス

特徴

- ◆成虫は体長4cm程度。前胸部は明赤色で、全体は光沢ある黒色。成虫は6～8月頃に出現。
- ◆幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。3月下旬から10月頃に中華麺～うどん状のフラス（木くず等の混合物）を出す。
- ◆フラスが発生している穴には幼虫がいる可能性が高い。

防除のポイント

- ◆被害が大きい樹は伐採し、破碎や焼却することが望ましい。
- ◆伐採した枝や幹はほ場に放置せず処分する。すぐに処分ができない場合は、ネットやビニルシート等で2重に覆う。伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い成虫が分散することを防ぐ。

伐採後の切株について



野焼きについて

- ◆廃棄物の処理と清掃に関する法律第16条の2により、**野焼きは原則として禁止**されている。一方で施行令第14条第4項において、「農業を営むためにやむを得ないものとして行われる廃棄物の焼却」については例外とされている。**例外に該当するかどうかは市町村によって異なるため必ず確認し、なるべく焼却施設にて焼却する。**

処分に伴う運搬について

- ◆特定外来生物に指定されており、伐採樹であっても、内部に幼虫が潜んでいる場合は運搬が制限される。このため、**処分のための運搬であっても市町村の指示に従うこと。**
- ◆市町村焼却施設（もしくは市町村の清掃工場）で焼却可能な場合は、ネットで被覆するなどの**分散防止措置を実施の上**、現地より運搬して焼却する。詳細は下記の技術資料「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」のP10「2. クビアカツヤカミキリの運搬および保管について」を参照してください。

詳しい防除方法は技術資料「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」を参照してください。

[http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia_bungii/Aromia_bungii\(H3104\).pdf](http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia_bungii/Aromia_bungii(H3104).pdf)

野菜

1月の病害虫発生状況

品目	程度				
	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
トマト・ミニトマト (施設栽培)				コナジラミ類	
あぶらな科野菜 (キャベツ、こまつな、しろな等)		菌核病			

トマト・ミニトマト(施設栽培)

コナジラミ類



トマト黄化葉巻病発症株

特徴

- ◆吸汁による白化のほか、トマトではTYLCV（トマト黄化葉巻ウイルス）を伝搬し、致命的な被害をもたらすこともある。

防除のポイント

- ◆トマト黄化葉巻病は定植後の早い時期に感染すると株ごと除去する以外に対策がないので、コナジラミ類の防除を徹底する。
- ◆施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。
- ◆ほ場周辺の雑草、特に野良生えトマトの除草を徹底する。
- ◆グレーシア乳剤、ベネビアODなどを散布する。

あぶらな科野菜（キャベツ、はくさい等）

作物により登録内容が異なるので、ラベルの内容を必ず確認すること

菌核病



特徴

- ◆長雨や、多湿土壌で発生が助長される。

防除のポイント

- ◆菌核が土中に残って伝染源になるので、被害株は、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆なばなやレタスなど、本病が発生しやすい作物との連作を避ける。
- ◆キャベツやはくさい等で、発生が予想される場合は、結球開始期からベンレート水和剤、ロブラール水和剤などを予防的に散布する。

たまねぎ

べと病



特徴

- ◆ 苗床・定植後の本ぽで、作物残さなどから感染し、越年罹病株として翌年1～2月に病徴を現し、2次伝染して3月下旬以降の発生につなげる。

防除のポイント

- ◆ ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ダコニール1000、ランマンフロアブル、ピシロックフロアブルを予防的に散布する。
- ◆ 越年罹病株は見つけ次第取り除く。

※ジマンダイセン水和剤とペンコゼブ水和剤は同一成分（マンゼブ）。マンゼブの総使用回数は5回以内。